東一條通信

十一月御大典の京都は實に賑々しい光景を呈した．市街の隅々に至るまで御大典氣分に滿ち，總てのものを飾り立て，みがき立て，山々の姿も，河水の色も，實に晴れやかに美しかつた．

御大典の高潮は，七日の，陛下御着から，十七日の，大饗夜宴までで，全市は「奉祝」と「萬歳」の歡呼に充ちてゐた．此の長い間，大學はぶつ通しに講義は休みで，教授も學生も皆一般社會の奉祝の渦卷き中に卷き込まれてゐたが，總代教授たちは幾度も御所に召されて種々の御儀に列したので可なり忙しかつた．

大學天文臺は，大學の他の部分と共に，十二日と十三日とは門戸を開放して，一般社會人士の觀覽に供した．展覽品の中で最も人の眼を惹いたのは，言ふまでもなく我が三十センチの大赤道儀であつて，終始，中村氏其の他が傍について器械の要部やドームの構造などを說明した．徑九メートルの大ドームが人の片手の力で易々と廻轉する有樣を，來觀者たちは手品のやうに不思議がつた．扇形の「觀測準備室」にはわづか一週間まへにドイツから到着したばかりのバムベルヒ90ミリ子午儀や，ユニヴーサル機，ケムブリヂ測微機，それに尙ほ，大小の望遠鏡模型や，隕石の二つ三つを陳列し，又，三方の廣い壁面には種々の星圖や天體模樣や，人物や天文臺や星や月等の寫眞を多く額椽に入れて並べた．尙ほ此の建物の入口から出口までの觀覽者の通路には，やはり，多くの天文寫眞を並べて，長短それぞれの說明文を添えた．

二ケ日にわたつて，開放時間總計十二時間，其の間に來觀した人の數は約六千と思はれた．此の開放初日の午後，誰も知らない間に，田中館愛橘博士が，一般觀覽者の群に混つて來られたらしい．其の日閉門後，出口に近い所に並べてあるベセルの寫眞の額椽に

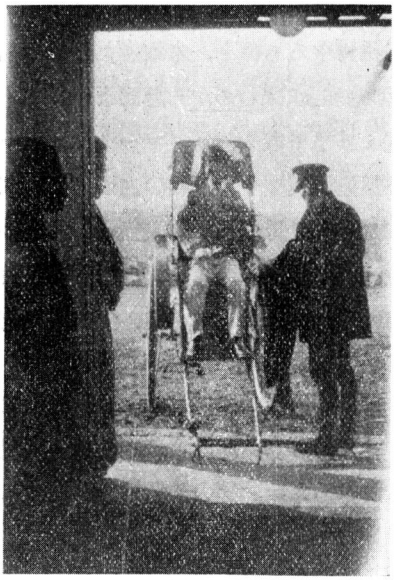
Kono Oomatigai.niwa odoroita! Tanakadate-A.

と書いた名指が一枚はり付けてあるのを見て，一同は驚いた．なるほど好く見ると此の寫眞像はベセルのものではなくて，正しくガウスであつたの

だ．ガウスは地磁氣學の元祖である．其の間違ひを地磁氣の專門家である田中館博士によつて見付けられたのは奇緣であつた．

御大典中，他から入洛した天文學者は木村榮博士以外に誰も無かつた．木村博士は同夫人と共に，九日夜七時過ぎの特別列車で七條驛に着．迎えられて直ちにの山本宅に入られた．そして翌十日朝七時から美しい大禮服を着て紫宸殿の儀に臨まれ，次ぎの十一日は午後二時から同樣な服裝で御神樂の儀に臨まれた．それから暫く日をおいて，十七日午後七時から又々盛裝して夜宴の儀に臨まれ，夜半を過ぎて歸宿された．博士の大禮服姿を撮影しやうと，天文臺の伊藤氏が豫てから待ちかまへて居られたのに，三回とも時間の都合が惡くて，此の計畫がオヂャンになつたことは氣の毒であつた

久しぶりで御迎えした木村博士は相變らずの元氣で，いつもあいそよく色々な話しをせられた．殊に博士は十月末に外國から歸られたばかりなので，話題が多く，又，新しかつた．御大典の諸儀式に參列される日の間の，十七日午前十時から，博士は天文臺有志の乞ひを容れられ，談話室に於いて一場の講演を試みられた．初め，別に何の演題も與へられなかつたが，大體に於いて今夏のライデン會議の模樣から，つゞいて緯度變化に關する最近の學界大勢を話された講演は後學者のために暗示に富む點が多かつた．



十一月十日早朝，紫宸殿の儀參列のため東一條の宅を出られる木村博士

御所に於ける御神樂の儀の十一日午前中は，木村博士夫婦を案內して，岡崎平安神宮，智恩院，圓山公園から清水寺一帶の東山，それから東西の兩本願寺等を案內し，

次いで二條城や御所の外廓，並びに烏丸，四條あたりの街路を案内した．又，翌十二日は，午前中，花山天文臺の敷地へ案内し，午後は，晴天を幸ひ，叡山に登つた．ケーブル車が出來てから，此の山は京都に於ける偉大なる一名所となつた觀がある．博士も同夫人も，京都へ着かれて以來，毎日，宿から見える比叡の姿を眺めて，「登りたい登りたい」と言つて居られたのであるから，此の日の登山は博士御夫妻の滿足を得たらしい．殊に此日の叡山は，京都に滯在中の數十名の外國使節たちの登攀があつて，山巔の四明嶽や將門岩あたりは特に國際的な賑はひがあつた．我々の一行には上田助教授の一行を加へて，總勢七人であつたが，日が早く暮れたため，坂本へ下山してからは，豫定の石山行きを斷念し，大津から電車で京都へ歸り，四條橋畔八百政で博士から晩餐の饗應にあづかつた．窓外の街路は美々しく飾られた花電車が往復してゐた．

十三日から二三日の間，博士夫妻は暫く京洛の地を離れて，須磨明石有馬あたりを遊覽され，十六日に歸洛．其の夜，博士は豫てからの約束により關田の松山氏方の謠曲の會に臨まれた．

十七日頃から博士は少しく風邪の氣味に見受けたが，夜宴の儀の翌朝は遂に床から起き出られず，從つて十八日には天文臺有志の催しにかゝる晩餐會にも出席されなかつた．そして十九日の夜，十一時半の汽車で博士は鄕里金澤へ出發され，夫人は翌二十日朝の特別列車で東京へ歸られた．

御大典の諸儀式が終つて，十二月から三月末までは京都御所内の拜觀が許されるので，全國から忠良な國民たちが我が大禮の都へ押し寄せることであらうと察せられる．此の機會に又多くの友人と久しぶりで相見る事もあらうと思はれる．

濱松支部新設

濱松高等工業學校教授理學士城憲三氏等の熱心なる盡力により，今回同地に本會支部を開設することとなつた．同地の會員たちは天文智識の普及のほかに何等かの研究的觀測をもくろみつつ居られる．同地には15センチ級の屈折式望遠鏡もある．發展をいのる．